

# 世界遺産登録に向けて

## 鶴子銀山(3) 進化する採鉱技術

天文11(1542)年に開発された鶴子銀山は、鉱脈が露出している尾根筋の地表面を掘り下げながら、鉱石を採取する「露頭掘り」でした。次第に穴が深くなるにつれて、その上に丸太を組んで、穴底から鉱石を吊し上げるようになり、これを、信州では「吊し掘り」と呼んでいたそうです。

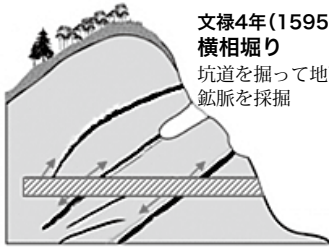
露頭掘りが深くなるにつれ採掘が困難になってくると、鉱脈に沿って掘り下がる「ひ押し掘り」が行われます。しかし、この掘り方では雨水が入ったり、地下深く掘り進むと湧水のため採掘が困難になってきました。

そこで、文禄4(1595)年に石見銀山からやってきた山師らによって、「横相掘り」という水平坑道を掘る技術がもたらされました。この掘り方は、排水ばかりではなく、新たな鉱脈も探索できるというもので、鉱石の増産につながりました。

ちなみに、1545年に発見されたポリビアのポトシ銀山でも、当初は露頭掘りでしたが、1556年から横穴が掘られ始め、銀の生産を拡大していきました。

### ◆市役所世界遺産推進課

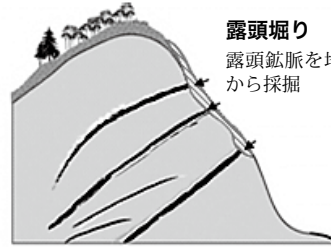
(金井就業改善センター内) ☎63—5136



文禄4年(1595)以降  
横相掘り  
坑道を掘って地下の  
鉱脈を採掘



戦国時代後半～  
ひ押し掘り  
露頭鉱脈部分を  
地表から採掘



露頭掘り  
露頭鉱脈を地表  
から採掘

【採鉱技術の変遷】

## 佐渡市国際交流員

## 退任の「あいさつ」

皆さま、こんにちは。佐渡市の国際交流員のン・ウィーテンです。



時間が経つのは早いもので、8月2日をもちまして1年間の任期が終わりました。皆さまには大変お世話になり、心から厚くお礼申し上げます。

振り返ってみると、短い1年間でしたが、数々の人と出会い、さまざまな経験をさせていただき、とても充実した毎日でした。市役所の仕事は初めてで、皆さまにご迷惑をおかけしたことも少なかつたと思いますが、佐渡の皆さまのおかげで、無事にこの1年を乗り越えることができました。

実は、佐渡へ来る前は、佐渡について全く知りませんでした。インターネットで検索してみると、コブダイや夜の宿根木の写真しか出てきませんでした。何も知らない佐渡での生活は不安もありましたが、新しい発見にわくわくしながら、佐渡にきました。そして、佐渡に着いたその瞬間、目の前の風景に感動しました。一面に広がる田んぼや青い空、海や山に囲まれるこの島に住んでい

る人はすぐく幸せだと思いました。シンガポールではこんな綺麗な景色を見ることはできないからです。

訪問や取材、イベント業務で、観光地や伝統芸能などを見たり、体験する多くの機会に恵まれました。四季折々に彩りを変える美しい海や山と雄大で豊かな自然、佐渡の皆さまの温かさ、そして、長い歴史と伝承されてきた島独特の伝統文化は佐渡ならではの宝物だと感じています。

去年の10月から行ってきた英語講座には、多くの皆さまに参加していただき、親切で熱心な姿勢にとっても感激しました。私もその講座を通して、佐渡のことをより知ることができました。本当にありがとうございます。

佐渡の国際交流員としてのこの1年間は、私にとって、とても大切な経験であり、人生の中で忘れられない思い出になりました。この経験を活かし、シンガポールに帰国後は観光に関するような仕事に就きたいと思っています。佐渡の素晴らしさをお伝えしたいです。佐渡の皆さんをはじめ世界中の人に伝えていきたいです。

またいつか佐渡かシンガポールでお会いしましょう！